

be

on Saturday

望んでいた通りの作品

作・下田逸郎、歌・石川セリ「SEXY」

歌手の石川セリさんが、「八月の濡れた砂」で鮮烈なデビューを果たしたのは40年前、1971年の夏。高校を出たての18歳だった。若者たちの無力感を描いた同名の日活映画（藤田敏八監督）の主題歌だった。

「石川セリの歌声は虚無的で、閉塞した時代の気分を象徴していました」と、音楽評論家の田川律さん(76)は見る。当時の若者は「しらけ世代」と呼ばれた。60年代後半は漫画や演劇、フォーク音楽など多くのサブカルチャーが台頭した。学生運動も盛んだったが、70年代に入ると終息、熱狂が冷めた後の挫折の時代だった。

時代を切り取った映画は好評で、石川さんの主題歌も72年3月にシングル盤が発売された。

だがその年の暮れ、1枚目のアルバムと2枚目のシングルを発売後、石川さんはいったん歌手活動を休止する。環境の激変に戸惑い、立ち止まって一息入れたかった。1年間仕事を休み、ヨーロッパなどを旅した。

歌手活動を再開して約1年後の75年、石川さんはシンガー・ソングライターの下田逸郎さん(63)に初めて会った。楽曲提供を依頼するためだ。

すべての新曲の作詞家や作曲家と関係者と会っていたわけではない。「でも、この人には会いたかった。すてきな仕事をしてきた人だったし」。下田さんは69〜70年に人気沸騰した劇団

うたの旅人

北海道・日高



「東京キッドブラザース」の座付き音楽監督として活躍、音楽界で注目される存在だった。

20代後半の頃は「とても大人っぽい人」に見えた。「楽しみにしていたら、望んでいた通りの作品がきた」。それが「SEXY」だ。75年4月、5枚目のシングルとして発売された。

下田さんから歌の背景説明はされなかった。石川さんが気がかりだったのは、刺激的に響く「セクシー」という単語の裏側にある世界を表現できるかどうか。「単純に色っぽいという意味じゃない。生きていることそのもの、そう直感したから、(当時まだ22歳の)私なんかに歌えるかしらと思った」

実際には石川さんの柔らかない声色によく合い、歌は静かに売れた。その後、井上陽水さん、南佳孝さん、松任谷由実さんら、一線級のアーティストから次々と楽曲提供を受ける。「独

特の歌声、孤高を感じさせる風情。幅広く、アーティスト志向の強い、魅力的な仕事を重ねた(田川さん)結果、フォークともポップスとも分類されない、独自の世界を作っていく。78年に陽水さんと結婚した石川さんは、85年から再び歌手活動を休止、95年に再開した。大病後の2008年には「自分で聴きたい」歌を集めたベスト盤「Re:SEXY」を発表した。「SEXY」は「ずっと大切な歌」、もちろん収録した。

この年の3月、石川さんは下田さんと共演した。「SEXY」を一緒に歌い、初めて聴いた下田さんの生声に、ほれ直した。「まいったなあ、こんな日本画のようなこまやかさで歌える男の人がいるんだ」



月に発売された。

下田さんは76年にセルフカバーしたシングル「セクシー/ちいさなため息」を発売。松山千春さんもカバーした。97年の映画「身も心も」(荒井晴彦監督)では、石川さん版が挿入歌として使われた。2010年に下田さんも出演したニューヨークの舞台「ザラストゴールデンパットひとひら2010」にはイタリア語版を挿入した。

石川さんの代表作は井上陽水さん作詞、作曲の「ダンスはうまく踊れない」(77年)など。95年にはCD「武満徹ポップ・ソングス『翼』」を発表した。コンサートは、2002年に19年ぶりに開いた他、08年にも東京、大阪、福岡などで開いた。

song

子供みたいに 笑うあなたが
急に黙って セクシー
旅に出るなら 夜の飛行機
つぶやくあなた セクシー
夜の深さに
ふたり とけてゆくね
愛の言葉は 見つめあうこと
ふたつの心 セクシー

愛の暮らしに 少し疲れた
あなたと私 セクシー
あしたのことは 誰も知らない
だから今夜は セクシー
夜の深さに
ふたり とけてゆくね
愛の言葉は 見つめあうこと
ふたつのからだ セクシー

JASRAC許諾

シンガー・ソングライター下田逸郎さんが1973年ごろ作詞、作曲した。石川セリさんの5枚目のシングル「フワフワ・WOW・WOW/SEXY」=写真=として75年4